

箕島高等学校

実施日時	平成30年 7月18日(水) 10:35~12:25
参加者	1年生生徒約220名、教職員16名、PTA役員10名 計246名
実施内容	地震及び津波の被害についての講義、高台への避難訓練

事前の取組

本校は有田川の河口近くに隣接し、地震による倒壊被害以外に、津波による甚大な被害が想定される。南海トラフ大地震を想定し、学校にいるときに地震に遭遇した場合、どのような行動をとるべきか、事前に話し合う機会を設け、地震・津波から命を守る防災対策、減災対策についての意識を高めた。

主なプログラム

本校1年生全員が体育館に集合し、校長先生から防災についての講話を受けた。実際の津波の状況やシュミレーションの映像を通して、もし、本校に津波がきたらどのような状況になるかを想定し、津波被害に遭わないために、避難はどうすればいいか、どのようなことに注意すればいいのかなどの説明を受け、生徒自身が考える機会を持った。また、和歌山県に大きな被害をもたらす南海トラフ地震は、今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予測されていること、その際には、多くの建物が全半壊し、また、大きな津波がすぐ発生する確率が高く、多くの命が失われることが予測されていることを学んだ。

体育館での講話終了後、津波を想定し、正・副担任の引率で各クラスごとに避難を始めた。学校北側にある愛宕山の海拔20mの地点を避難目標地点として目指し、生徒はクラスでまとまって行動をとった。学校の北側にある道路の望月線は、

普段から交通量が多く生徒たちが横断するのに混雑していたが、有田警察署の方々や、PTAの皆さんの協力があり、事故もなく安全に通行することができた。しかし、実際に災害が起こった時にはもっと混雑していると思われるため、今日の訓練をもとに、実際の避難の時に役立ててほしいと感じた。また、当日は35℃を超える炎天下だったので、このような状況の中、急な斜面を登る大変さを知ることができた。



参加者感想文

A： 地震や津波は様々な場所で発生していますが、自分の住むところは大丈夫な気がしていました。しかし、今回の講習のシュミレーション図を見て、箕島高校箕島校舎や、私の住む地域に津波が来る事がわかった。すぐに避難できるようにしないといけないと思いました。今回の訓練で高台に避難しましたが、本当に津波が来るときはめちゃくちゃ焦るので、冷静に行動できるようにしたいです。

B： ニュースで地震の映像を見ながら、どこか他人事に思っていた自分があります。南海トラフ地震は、70%以上の確率で30年以内に発生するとのこと。今日は、「減災」という言葉を教えてもらいました。自然災害にはかきませんが、被害を少しでも抑えられるよう、みんなで考えていきたいです。



防災・減災についての展示

11月に実施する文化祭において、防災・減災に関する展示ブースや、アルファ化米の試食コーナーを設けて、防災や減災についての理解を深めている。



成果と課題

パワーポイントを利用した講義を行い、東日本大震災の津波被害の様子や、県から発表されている防災マップを示すことで、実際に地震・津波が起きた場合に自分のとるべき行動について考える良い機会になったと思われる。今後は、講義や、避難訓練、救急救命講習、アルファ米の試食以外の取組も追加したい。

その他

救急救命講習

本校では、1年次に救急救命講習を受講することとしている。クラス単位で隣接する消防署の消防士の方から直接説明・講習を受け、各自が心臓マッサージの大切さ・方法、AEDの正しい取り扱いを体験する等、心肺蘇生法を7月に学習した。